第１回　高齢者福祉医療戦略会議　議事要旨

日　　時	平成 24 年２月３日（金）　14 時～16 時
場　　所	小牧市役所本庁舎４階　第４会議室
出 席 者	**【委員】（名簿順）** 山下 史守朗　小牧市長 松岡 和宏　市市長公室長 舟橋 武仁　市健康福祉部長 末永 裕之　小牧市民病院長 船橋 重喜　医療法人喜光会 北里クリニック院長 浅井 真嗣　医療法人胡蝶会 サンエイクリニック院長 大橋 弘育　（有）ウィルケア小牧代表取締役 大野 充敏　（有）エスエス・ヘルスケア・システムズ取締役 三嶋 直美　岩崎あいの郷（包括支援センター）管理者 田中 秀治　小牧市社会福祉協議会在宅福祉課長 江崎 みゆき　小牧市保健センター所長 松浦 詩子　小牧市ボランティア連絡会会長 松田 敏弘　特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク代表理事 穂積 聰　小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会副会長 **【コーディネータ】** 東　史人　㈱富士通総研 **【事務局】** 大野 成尚　市長公室次長 小塚 智也　市長公室 市政戦略課長 舟橋 朋昭　市長公室 市政戦略課 市政戦略係長
傍 聴 者	５名
配付資料	資料１　小牧市市政戦略会議の組織及び運営に関する要綱 資料２　高齢者福祉医療戦略会議について 資料３　委員名簿・会場配置表 資料４　高齢者福祉医療戦略会議の進め方について 資料５　「10 年後の高齢者の生活イメージ」たたき台（案） 参考資料１　小牧市審議会等の会議の公開に関する指針 参考資料２　小牧市情報公開条例（抜粋）

主な内容

１　開会

（１）　あいさつ（市長）

・　高齢者福祉医療戦略会議では、高齢者が尊厳を持ち、地域で安心して生活ができる社会を実現するための検討を行う。

・　小牧市でも高齢化が進んでおり、今後高齢化の進展に伴う地域の課題が顕在化することが予想される。

・　また、ひとり暮らし高齢者や老老介護の問題、在宅医療の問題等、現在の制度だけでは十分にニーズをカバーしきれない高齢者や、不安を感じながら生活をしている高齢者もいる。

・ そこで、現在のうちから、行政、地域住民、地域の関係者が同じテーブルにつき、小牧市の10年、20年後の将来を見据え、どのような社会が理想としてあるべきか、そのためにどのようなことが課題となるかを明らかにしたい。そして、理想の社会の実現に向けて誰が、何をしていくかを議論したい。
・ 会議における検討・議論には委員の皆様の力をお借りし、地域で様々な専門をお持ちの方とともに知恵を出し合い、既存の制度や仕組みの枠を超えてゼロから議論をするということ、そしてそこに行政のトップであり、また市民の代表である私（市長）が入り、忌憚のない意見交換を行うという新しい形で進めたい。そのため、私（市長）は行政の代表者ではあるが、市としての決定事項・実施事項を語るというものではない。

（２） 委員紹介
・ 事務局より、資料３を用いて委員を紹介。

（３） 会議の運営等について
・ 事務局より、資料１・２を用いて説明。

２ 議題
（１） 会議の公開について
・ 事務局より、参考資料１を用いて会議の公開・非公開の規定等について説明。
・ 委員により会議は公開と決定。

【会議の公開の決定を受け、傍聴者入室】

（２） 10年後の小牧市における高齢者の生活イメージ
・ コーディネータより、会議の進め方や本日の議題設定の背景等について、資料４・５を用いて説明。
・ 各委員から、自己紹介及び自らが考える将来の高齢者の生活像について提案・発表の後、委員間での質疑や意見交換。主な意見は以下の通り。

【将来の生活の場】
・ 可能な限り住み慣れた地域・自宅で家族とともに生活を続けていきたい。
・ 自宅での生活が続けられると良いが、もし自分や自分の家族が施設を利用することになった際には、自分が希望する生活を叶えられる場所を利用したい。
・ 安心して外出・移動できるよう、インフラ（道路・交通網）の整備も欠かせない。

【健康維持・生きがいづくり】
・ いつまでも心身ともに健康でいられるようにすることが大切。
・ 口腔衛生を保ち、自分の歯で好きなものを食べられることも大切。
・ 地域の中で役割や仕事を持ち、生きがいをもつことも重要である。社会の中で必要とされているということを実感することが大事である。また、地域の人との交流があってこそ、いきいきと生活ができる。
・ 可能な限り自分のことは自分ででき、身体機能の低下や疾病等があっても残された機能を活かし、いきいきと生活ができるようにしたい。

【在宅医療と看取り】

- 自宅での生活を考えるにあたり、在宅死についても考えなければならない。尊厳のある生き方とともに、尊厳のある亡くなり方も大切。
- 在宅医療で協力できる体制をつくり、対応することができれば、安心して自宅での生活を続けられる。「治す医療から支える医療」が必要。
- 市内で在宅医療を行う医師は少ない。開業医の意識改革等も含め人材の育成・増加による在宅医療の体制づくりが必要。

【専門職による支援体制づくり】

- 2025 年には団塊の世代が後期高齢者となる。地域包括ケアへの取り組みが進められているが、市として十分な対応ができるよう、地域単位での拠点整備を進めるほか、地域で事業として成立する仕組みづくりを進めていく必要がある。
- 専門職等の人材育成や、医療従事者と介護従事者との連携の強化も大切である。

【家族や地域住民等による支え合い】

- 高齢者の生活を支える上で、ボランティアだけでは限界がある。そのため、ボランティアだけではなく、地域がしっかりしていること、またそれ以前に家族がしっかりしていることが大切。
- 高齢者といっても、サポートが必要な方もいれば、元気な方もいる。高齢者が相互に助け合えるようになると良い。
- 住み慣れたまちで生活を続けていく上では、地域の人々の支え合いが大切。少しの見守りや軽度の作業へのサポートがあるだけでも、安心して生活をすることができる。

【会議全体】

- 10 年後の高齢者の生活を描く際には、それを支える家族や地域の仕組み、行政のサポート等をトータルに考えていかなければならない。
- 課題の抽出・検討に時間をかけるのではなく、明らかになった課題は着手できるところから改善していくことが必要。

（３） 今後の検討スケジュール

- 次回は５月 11 日（金）午後に開催予定。

（４） その他

- 時間に限りがあり、また各委員の意見も一度に聞いており咀嚼できていない部分もあるかと思う。本日発表・議論のあった内容は後日委員へフィードバックするので、確認の上、追加意見等あればお寄せ願いたい。
- 第２回の会議へ向け、事前作業の連絡を後日させていただく。ご協力をお願いしたい。

３ 閉会